

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	木下 由宇
論文担当者	主査 新村 健
	副査 木村 卓
	副査 戴 毅
学位論文名	Effects of body mass index on functional outcomes in patients with acute cerebral large vessel occlusion (超急性期脳主幹動脈閉塞症における機能予後に Body mass index が与える影響)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>血管内治療が盛んに行われる昨今、Body mass index (BMI) が超急性脳主幹動脈閉塞, acute cerebral large vessel occlusion (LVO) の転帰に及ぼす影響は未だ明らかにされていない。そこで本研究では、国内の急性 LVO 患者における BMI と機能的転帰との関連性を検討し BMI が急性 LVO 患者に与える影響を検証した。</p> <p>国内 46 施設の脳卒中センターにおける急性 LVO 患者レジストリー研究 RESCUE-Japan Registry² に登録された 2,420 名の事後解析を行った。患者は入院時の BMI (kg/m²) に基づき、低 BMI 群 : BMI < 18.5、正常 BMI 群 : 18.5 ≤ BMI < 25、高 BMI 群 : BMI ≥ 25 の 3 群に分類した。主要評価項目は、発症後 90 日の modified Rankin Scale (mRS) 5 または 6 とした。副次評価項目は、発症後 90 日の mRS 0 から 2、発症後 72 時間以内の症候性頭蓋内出血、および無症候性頭蓋内出血の有無とした。解析対象患者は 2,234 名で、低 BMI 群、正常 BMI 群、高 BMI 群はそれぞれ 14.5%、63.7%、21.9% だった。低 BMI 群は、より高齢で、女性が多く、病前状態が不良で、発症時の症状がより重篤であり、閉塞血管として内頸動脈または中大脳動脈 M1 が優位に多かった。さらに低 BMI 群では血栓溶解療法 (rt-PA) および血管内治療 (EVT) の介入が低かった。主要評価項目である mRS5 または 6 の割合の正常 BMI 群に対する低 BMI 群と高 BMI 群の調整オッズ比 (ORs) (95%信頼区間 : 95% CIs) は、1.59 (1.18-2.13)、0.80 (0.60-1.07) で、低 BMI 群で有意に高かった。低 BMI 群および高 BMI 群の mRS 0 から 2 の ORs (95% CIs) は 0.72 (0.53-0.99)、0.83 (0.64-1.06) で、低 BMI 群で有意に低かった。症候性および無症候性頭蓋内出血の ORs は、3 群間で有意な差を認めなかった。本研究から急性 LVO 患者において、低 BMI は脳梗塞の重症度および機能転帰不良と関連することが明らかにされた。上記の成果は、学位授与に値すると判断した。</p>	